

実験

川を流れてくる石の形を 自分で作ろう

小学五年生の理科「流れる水のはたらき」の学習の一つの内容として、川原の石は、川の上流から下流に行くにつれて大きさや形が変わることを学習します。

本校ではそれぞれから採取した石を触って学習しました。その学習の中で「どうして岩や石は小さくなっていくのだろう」ということについて、「水の中で激しく動くから」、「流れてくるから」と考えました。実際に石と川を使っただけの実験はできませんが、吸水性スポンジオアシスを石の代わりに使って水の入ったタッパーの中に入れ、大きく激しく振り、振った回数により大きさや形の変化を観察しました。

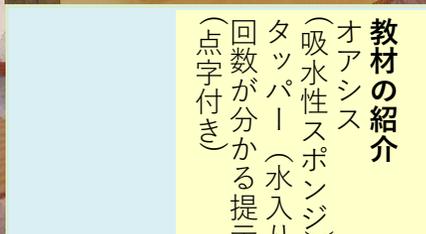
「あつ、角が少し丸くなった。」 「小さくなってきたよ。」
「タッパーの下に何か小さなものがたまってきている。」 「これって砂?」

一人一人自分の教材を手指で触り、比べながら言葉で表現し、石の変化について理解していきます。

教材を工夫し一人一人が直接手で触れる実験を通して、気付いたこと、分かったこと、それらを言葉にすること、考えをまとめることを視覚障害教育として理科の学習で大切にしていきたいと思っています。

教材の紹介

オアシス
(吸水性スポンジ)
タッパー(水入り)
回数分かる提示板
(点字付き)



触っている下にたまっているのが砂と同じと考えられるね!



流れる水のはたらき (5年理科)



もとの形、50回振ったもの、100回振ったもの…どんどん振っていくと形が変わり、小さく丸くなっていくことがわかるね。